

日常的な取組を生かした「書くこと」の学習の実践

【白岡町教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 中学校、全学年、国語科
- 2 ねらい 日常的な取組を生かした学習をとおして、生徒一人一人の「書く」力を育成する。
- 3 取組内容

(1) 「書くこと」の基礎・基本を習得させるための実践

ア 文章の「型」を身に付けさせる短作文指導

本校では、これまでいくつかの教科で学習自己評価カードを使って授業の「振り返り」を短い文で書くことを行ってきた。しかし、短時間で考えをまとめられない生徒や、学習したこととは関係のない内容を書く者が多かった。そこで、「振り返り」を短い文で書くまとめ方を授業で取り上げ、指定した構成で文章を書く練習を行った。

まず、年度当初の授業で右の手引きを使い、次のように基本的なまとめ方について指導する。

(f)文章は「考え→理由→具体例」の構成で書くようにする。その際、「なぜなら」「たとえば」などのつなぎ言葉を使うよう促す。

(g)文章は100字程度にまとめる。

(h)5分間程度でまとめさせたあと回収し、3段階評価を行って、次時までに返却する。

A：指定された構成で誤字脱字等がなく100字程度でまとめられた。

B：100字程度でまとめられた。

C：100字程度でまとめられなかった。

書き始めのころは、学習のめあてにそって考えをまとめられなかったり、理由と具体例がうまくつながらなかったりする文章が多くみられる。そのため、適宜、授業で模範例を示して解説を加える。こうした作業を繰り返す行うことで、しだいに「型」を身に付け、他教科の「振り返り」等にも応用できるようになる。

オリエンテーション（短作文の書き方）

■評価カードを使って、構成の整った文章を短時間で書く練習をしましょう。

1 今日の日付を、「月日」欄に書きます。

2 あいさつについての評価は○がします。それを「あいさつ」欄に記入しましょう。

3 用意すべき持ちものの有無を確認し、近々の友達に評価してもらいます。

4 ホワイットボードを見て、教材名と学習のめあてを該当の欄に書きます。（授業終了後に学習したことを振り返り、該当欄に記入します。）

5 国語係に提出します。（持ち帰らないよう注意してください。）

6 国語係は図書室の戸棚にあります。書く欄がなくなったら、各自で新しいものを貼ってください。

7 国語係は図書室の戸棚にあります。書く欄がなくなったら、各自で新しいものを貼ってください。

【振り返りの書き方】

①構成は、三つの事柄（①考えの理由②具体例）を順番に書きます。

②【例文】

「学習のしかたについての話を聞き、私自身も準備することを心がけようと思った。なぜなら、去年忘れ物をして失敗したことがあるからだ。だから、問題を忘れたときは、友達にまで連絡をかけてしまった。」

③文章を書くときは、次のことに留意します。

- ・主題と述語を書く（省略しないことを基本とする）
- ・一文を短くする（主述の関係を明確にする）
- ・助詞（テ・ニ・ツ、）を正確に使う
- ・書き言葉と敬語を区別する（「〜けど」は使わない）
- ・文体（常体と敬語）を統一する
- ・誤字脱字に注意し、習った漢字を使う（ために辞書を使う）
- ・句読点を正しく打つ（特に句点をきちんと書く）

国語科学習評価カード			
2年(4)組()番()氏名()			
月日	教材名	振り返り(考え→理由→具体例)	評価
1/20	学習のめあて	...	A
1/20	学習のめあて	...	B
1/20	学習のめあて	...	C
1/23	随筆の意味	...	A
1/23	随筆の意味	...	B
1/23	随筆の意味	...	C
2/4	随筆の意味	...	A
2/4	随筆の意味	...	B
2/4	随筆の意味	...	C
2/6	随筆の意味	...	A
2/6	随筆の意味	...	B
2/6	随筆の意味	...	C
2/9	随筆の意味	...	A
2/9	随筆の意味	...	B
2/9	随筆の意味	...	C
2/16	文法(行属語)	...	A
2/16	文法(行属語)	...	B
2/16	文法(行属語)	...	C
2/18	文法(行属語)	...	A
2/18	文法(行属語)	...	B
2/18	文法(行属語)	...	C

■評価基準

＜あいさつ＞

A... 各名までカードが配布され、全員が着席し、気持ちのよいあいさつができた。

B... 一つできないものがあつた。

C... 二つ以上できないものがあつた。

＜持ちもの＞

A... 教科書、ノート、図解辞典、辞書記録、その必要なもの(持参するよう連絡があったものや貸借)をすべて忘れずに用意できた。

B... 一つ用意できないものがあつた。

C... 二つ以上用意できないものがあつた。

＜振り返り＞

A... 空欄がなく、課題にそって「振り返り」が書かれた。(学習のめあて→考え→理由→具体例、4行以上)

B... 空欄がなく、「振り返り」が4行以上書かれた。

C... 空欄があつたり、「振り返り」が4行以上書けなかつたりした。

イ 学習したことを工夫してまとめさせるノートの取り方指導

入学したての生徒の多くは、小学生用の学習帳を使っていたこともあり、ノートの取り方が一律である。板書事項をゆっくり丸写しするだけで、家庭学習にも生かされない。そこで、「ノートのとり方」を授業で取り上げ、学習したことを工夫してまとめられるよう指導した。

まず、年度当初の授業で、基本的なノートの取り方等について確認する。

(f) ノートはいわゆる大学ノートを使用する。縦書きを原則として、上下のページを「授業用」と「家庭用」のワンセットとして使う。

(g) 日付、教材名、学習のめあてを書く。

(h) 上のページを授業用とする。板書事項を中心に、気がついたことを短時間でメモする。

(i) 下のページを家庭用とする。授業中にメモしたことや、配付されたプリント等を使って、その日に学習したことをわかりやすくまとめる。

ノートは学期末に回収し、次のような3段階評価を行って返却する。

A：授業中に板書事項等をメモしたページと、それをもとに家庭で学習したことをまとめたページがわけて記述されている。記述内容はBランクに準ずる。

B：毎時間、板書事項を中心によくまとめている。日付、めあてが記録され、授業で使用したプリント等もきれいに貼ってある。

C：あまり書かれていない。

初めのころは、小学校のようにノートをとる時間を設定しないため、メモができず、きちんとまとめられない生徒が多い。家庭学習の習慣も身に付いていないため、プリント等をなくしてしまう者もいる。しかし、学期末に評価し、実際に模範例を示していくと、しだいに意欲的にまとめられるようになってくる。聞き取りやメモの取り方の学習も関連指導することで、一人一人が工夫を凝らした自主学習にも役立つノートが増える。

ノート等点検表～3学期～

2年()組()番 氏名()

国語の学習に対する「意欲・関心・態度」等をはかる材料として、ノート等の点検・評価を行います。評価基準は、それぞれの※印に示してあります。下記の手順にしたがって、提出の準備をしましょう。

<手順>①ノート等に、クラス・番号・名前が書かれているか確認する。
 ②評価基準にあわせて自己評価してみる。(できれば友達にも見せよう)。※印内には何も書かないこと。
 ③目には達しないものについてやり直しをする。
 ④この点検表をノートの一巻最初のページにはきみ、指定された日に、他の資料といっしょに提出する。 ※記名を忘れずに。

■ノート

※A……授業中に板書事項等をメモしたページと、それをもとに家庭で学習したことをまとめたページがわけて記述されている。記述内容はBランクに準ずる。
 B……毎時間、板書事項を中心によくまとめている。日付、めあてが記録され、授業で使用したプリント等もきれいに貼ってある。
 C……あまり書かれていない。
 X……未提出

■読書記録

※A……たぐさんの記録(週1冊が目安→1.4冊)が、ていねいにまとめられている。
 B……すべての項目が、ていねいに記入されている。
 C……記入されていない項目がある。あまり記録されていない。
 X……未提出

■すらすら基本文法

「2 いろいろな単語(助詞～助動詞)」p.44～p.65

※A……採点、関連し直しがすべて終わり、解説等の書き込みがある。
 B……採点、関連し直しもすべて終わっている。
 C……採点等ができていない。記入もれがある。



(2) 「書くこと」の基礎・基本を活用させるための実践

ア 新入生保護者説明会のための学校紹介文づくり

本校では、毎年2月に次年度の新入生とその保護者を招き、説明会を実施している。そのときの資料に、次のような手順で書かせた学校紹介文を載せた。

(7)新入生やその保護者に向けて書くことを確認する(よく書けた作品は実際に説明会資料として採用することを予告する)。

(8)自分が小学生のときに不安だったことを思い出し、それを解消できるような内容のもの、あるいはこの学校のよさを伝えられるようなものを題材とするよう伝える。

(9)題材が偏らないよう、学級全体で分担を決める。同じ題材を扱う者同士でグループをつくり、情報交換する。

(10)小学生にもわかるような語句を使い、読みやすい文章に仕上げる。

説明会資料に採用された作品をプリントして配付し、伝えたい事柄がどの程度明確になっているか、どのように文章構成が工夫されているかを評価し合う場を設定する。



イ 新聞の投稿欄に載せるための意見文づくり

本校の生徒は、ものごとにもじめに取り組む者が多い。ただ、視野が狭く、社会に広く目を向けている者は少ない。そこで、新聞の投稿欄に自分の考えを載せることを目的に意見文を書く活動を行った。

(7)家庭から持ち寄った新聞を読み、世の中の様々な話題について知る。その中から興味関心のある話題を一つ以上選ぶ。

(8)その話題に対する自分の考えを一文にとまとめ、それを要旨にして文章の構想を練る。

(9)説得力ある文章とするために、自分の経験や図書室の資料から材料を集め、自分の意見を正当化するための具体例等を考える。

(10)書きあげた文章を互いに読み、語句の使い方や文章構成について感想を述べあう。

(11)できあがった意見文(投書)を、新聞社に送付する。

説得力ある文章となっているものを教科通信に載せ、文章構成や具体例等のよさを全体で確認する。また、投書欄に掲載された作品と原文を比較し、書き直されているところを分析し、今後の参考にさせる。

